

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第4567864号  
(P4567864)

(45) 発行日 平成22年10月20日(2010.10.20)

(24) 登録日 平成22年8月13日(2010.8.13)

(51) Int. Cl. F I  
E O 6 B 3/00 (2006.01) E O 6 B 3/00 A

請求項の数 3 (全 11 頁)

(21) 出願番号	特願2000-309400 (P2000-309400)	(73) 特許権者	307042385 ミサワホーム株式会社 東京都新宿区西新宿二丁目4番1号
(22) 出願日	平成12年10月10日(2000.10.10)	(74) 代理人	100090033 弁理士 荒船 博司
(65) 公開番号	特開2002-115458 (P2002-115458A)	(72) 発明者	飯田 和仁 東京都杉並区高井戸東2丁目4番5号 ミ サワホーム株式会社内
(43) 公開日	平成14年4月19日(2002.4.19)	審査官	辻野 安人
審査請求日	平成19年8月31日(2007.8.31)		

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 出窓ユニットおよび出窓ユニットの施工方法

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

躯体より外方に突出して設けられる出窓を構成する出窓ユニットにおいて、  
躯体に取り付けられるとともに、出窓に取り付ける窓枠であるサッシ枠の寸法に合わせて屋根パネルと床パネルと側壁パネルとによって矩形枠に組まれてなる出窓本体と、

出窓本体の上面部を覆う出窓屋根本体と、該出窓屋根本体の先端縁部に連続して形成されるとともに、軒先部側に位置する出窓本体の前面および側面部側に位置する左右両側面とを覆う側壁部と、を有する部材であり、かつ前記出窓本体の上部に取り付けられる出窓屋根部品と、

前記出窓本体に取り付けられるとともに、前記出窓屋根部品の軒先部側に設けられる係合部と係合し、該出窓屋根部品を出窓本体に係合するための係合部が形成された受け材とを備えており、

前記出窓屋根部品の軒先部は出窓本体の前面部において前記受け材に係合され、  
前記出窓屋根部品の側面部は前記出窓本体の側面に貼設された外装材表面に当接されており、

前記出窓屋根部品の側壁部の上端部には、該出窓屋根部品の軒先部側から両側面部側に連続するとともに外方に開口する溝が設けられており、

前記出窓屋根部品は、前記溝から打ち込まれる釘等によって前記出窓本体に固定されており、

前記躯体に当接する前記出窓屋根部品の基端部の裏面と、前記躯体に当接する前記出窓

10

20

本体の基端部の上面との間には調整材が設けられており、  
 前記出窓本体下端部には下端水切材が出窓本体の下端縁部に沿って設けられ、  
 前記下端水切材は、複数の取付部材を介して前記出窓本体の下端縁部に取り付けられており、  
 前記取付部材は、前記下端水切材または出窓本体の下端縁部に所定間隔で複数取り付けられていることを特徴とする出窓ユニット。

【請求項 2】

請求項 1 に記載の出窓ユニットにおいて、  
 前記外装材は、該出窓本体の側面部全面を覆うようにして取り付けられることを特徴とする出窓ユニット。

10

【請求項 3】

請求項 1 または 2 に記載の出窓ユニットの施工方法において、  
 まず、前記出窓本体を前記躯体に取り付け、  
 次に、前記出窓屋根部品を前記出窓本体に前記出窓屋根部品の側面部が前記外装材表面に当接するようにして覆い、  
 次に、前記出窓屋根部品を該出窓屋根部品の軒先部において、前記受け材に係合させることを特徴とする出窓ユニットの施工方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

20

本発明は、建物の躯体から突出して設けられる出窓を構成する出窓ユニットおよび出窓ユニットの施工方法に関する。

【0002】

【背景の技術】

一般に、出窓を設ける場合には、その出窓に独立した屋根が設けられることが多い。しかし、出窓に独立した屋根を設けることは、構造が複雑になるために施工に手間がかかり、出窓の施工性の向上が求められている。そのような課題に対し、特開平 10 - 306656 号公報に記載の技術では、出窓を建物の軒先部に近い高さに達する位置に設け、建物の屋根の軒先部の樋カバーを出窓の屋根に兼用する構成にして対応している。

【0003】

30

【発明が解決しようとする課題】

上記従来技術には次のような課題があった。  
 特開平 10 - 306656 号公報に記載の技術では、出窓に独立した屋根を設けるかわりに、出窓を建物の軒先部に近い高さに達する位置に設ける構成となっており、出窓の設置場所が限られる。  
 本発明は上記課題を鑑みてなされるものであり、屋根を独立に設ける出窓の建築現場での施工を簡略化することができる出窓ユニットおよび出窓ユニットの施工方法を提供することを目的とする。

【0004】

【課題を解決するための手段】

40

上記課題に対し、請求項 1 の発明は、例えば図 1、図 3、図 4、図 5、図 7 に示すように、躯体 1 より外方に突出して設けられる出窓 2 を構成する出窓ユニットにおいて、  
 躯体 1 に取り付けられるとともに、出窓 2 に取り付けられる窓枠であるサッシ枠 25 の寸法に合わせて、屋根パネル 8 と床パネル 9 と側壁パネル 10、10 とによって矩形枠に組まれてなる出窓本体 3 と、  
出窓本体 3 の上面部を覆う出窓屋根本体 46 と、該出窓屋根本体 46 の先端縁部に連続して形成されるとともに、自身の軒先部 41 側に位置する出窓本体 3 の前面および自身の側面部 42、42 側に位置する出窓本体 3 の左右両側面とを覆う側壁部 47 と、を有する部材であり、かつ前記出窓本体 3 の上部に取り付けられる出窓屋根部品 4 と、  
 前記出窓本体 3 に取り付けられるとともに、前記出窓屋根部品 4 の軒先部 41 側に設け

50

られる係合部 4 3 と係合し、該出窓屋根部品 4 を出窓本体 3 に係合するための係合部 5 1 が形成された受け材 5 とを備え、

前記出窓屋根部品 4 の軒先部 4 1 側は出窓本体 3 の前面部において前記受け材 5 に係合され、

前記出窓屋根部品 4 の側面部 4 2 , 4 2 側は前記出窓本体 3 の側面に貼設された外装材 6 , 6 表面に当接されており、

前記出窓屋根部品 4 の側壁部 4 7 の上端部には、該出窓屋根部品 4 の軒先部 4 1 側から両側面部 4 2 , 4 2 側に連続するとともに外方に開口する溝 4 5 が設けられており、

前記出窓屋根部品 4 は、前記溝 4 5 から打ち込まれる釘 1 2 等によって前記出窓本体 3 に固定されており、

前記躯体 1 に当接する前記出窓屋根部品 4 の基端部 4 4 の裏面と、前記躯体 1 に当接する前記出窓本体 3 の基端部の上面との間には調整材 7 が設けられており、

前記出窓本体 3 下端部には下端水切材 1 7 が出窓本体 3 の下端縁部に沿って設けられ、

前記下端水切材 1 7 は、複数の取付部材 1 8 を介して前記出窓本体 3 の下端縁部に取り付けられており、

前記取付部材 1 8 は、前記下端水切材 1 7 または出窓本体 3 の下端縁部に所定間隔で複数取り付けられていることを特徴としている。

#### 【 0 0 0 5 】

請求項 1 の発明によれば、前記出窓本体 3 の前面部には受け材 5 が設けられ、前記出窓屋根部品 4 の軒先部 4 1 は前記受け材 5 に係合されるので、出窓屋根部品 4 を出窓本体 3 に容易に係止できる。この際、出窓屋根部品 4 の側面部 4 2 , 4 2 は、前記出窓本体 3 の外装材 6 , 6 の表面に当接しているので、出窓屋根部品 4 の上下動が可能であり、前記出窓屋根部品 4 を前記受け材 5 に係合させる作業が容易に行える。よって、前記出窓屋根部品 4 を前記出窓本体 3 に容易に取り付けることができ、施工作業が軽減できる。

また、前記躯体 1 に当接する前記出窓屋根部品 4 の基端部 4 4 の裏面と、前記躯体 1 に当接する前記出窓本体 3 の基端部の上面との間には調整材 7 が設けられているので、出窓屋根部品 4 を安定的に支持し、前記出窓本体 3 および躯体 1 への出窓屋根部品 4 の取り付けを容易に行える。また、出窓屋根部品 4 上部から加わる力に対する補強材としての効果を奏し、例えば、施工時に作業者が前記出窓屋根部品 4 に乗った場合にも、該出窓屋根部品 4 が所定の取付位置から下方にずれることを防ぐ。

また、前記出窓本体 3 下端部には下端水切材 1 7 が出窓本体 3 の下端縁部に沿って設けられているので、躯体 1 より突出していることにより雨がかかりやすい出窓 2 において、出窓 2 より下方の壁面に雨水等が伝わって壁面が汚れたり、浸水することを防ぐことができる。また、前記下端水切材 1 7 は、複数の取付部材 1 8 を介して前記出窓本体 3 の下端縁部に取り付けられており、前記取付部材 1 8 は、前記下端水切材 1 7 または出窓本体 3 の下端縁部に所定間隔で複数取り付けられているので、下端水切材 1 7 の取付位置がずれたり歪んだりすることがない。よって、下端水切材 1 7 の取り付け作業を容易かつ正確に行うことができる。

#### 【 0 0 0 6 】

出窓本体 3 は、出窓 2 の主要部を構成する部材であり、例えば、出窓 2 に取り付ける窓枠に合わせて複数のパネルによって枠が形成されるものがある。なお、その枠の表面には外装材 6 が設けられる場合がある。

#### 【 0 0 0 7 】

出窓屋根部品 4 は、前記出窓本体 3 の上面部を覆う出窓屋根を形成する部品であり、出窓 2 の外観上の装飾効果と庇の機能を果たすものであり、例えば、傾斜屋根の形状を有するものや、陸屋根の形状を有するものがある。

#### 【 0 0 0 9 】

調整材 7 は、例えば、長尺な角材であり、外装材の端材からなり、長尺な辺が出窓 2 の基端部に沿うようにして設けられるものである。

#### 【 0 0 1 3 】

請求項2の発明は、請求項1に記載の出窓ユニットにおいて、  
前記外装材6は、該出窓本体3の側面部全面を覆うようにして取り付けられることを特徴としている。

【0014】

請求項2の発明によれば、前記外装材6は、該出窓本体3の側面部全面を覆うようにして取り付けられるので、図5に示すように、出窓屋根部品4が外装材6の上端部を覆う構成となり、雨水等が外装材6より内側に入ることがない。よって、出窓本体3への浸水をより確実に防ぐことができる。さらに、出窓屋根部品4と前記出窓本体3の接合部における防水の為にコーキングの作業を簡略化でき、施工作业が軽減される。また、前記外装材6は前記出窓本体3の側面部の下端まで覆っているため、出窓本体3下端部の内部への雨水等の浸水も防ぐことができる。

10

【0015】

請求項3の発明は、請求項1または2に記載の出窓ユニットの施工方法において、  
まず、前記出窓本体3を前記躯体1に取り付け、  
次に、前記出窓屋根部品4を前記出窓本体3に前記出窓屋根部品4の側面部42，42が前記外装材6，6表面に当接するようにして覆い、  
次に、前記出窓屋根部品4を該出窓屋根部品4の軒先部41において、前記受け材5に係合させることを特徴としている。

【0016】

請求項3の発明によれば、まず、前記出窓本体3が前記躯体1に取り付けられ、次に、前記出窓屋根部品4を前記出窓本体3に前記出窓屋根部品4の側面部42，42が前記外装材6，6に当接するようにして覆うので、前記出窓屋根部品4を前記出窓本体3に被せれば適切な取付位置に容易に誘導できる。また、その次に、前記出窓屋根部品4をその軒先部41において、前記受け材5に係合させるので、出窓2の軒先部において、出窓屋根部品4を受け材5に係合させるだけで前記出窓屋根部品4が容易に取り付けられる。この際、出窓屋根部品4の側面部42，42は、前記出窓本体3の外装材6，6表面に当接しているだけなので、出窓屋根部品4の上下動が可能であり、前記出窓屋根部品4を前記受け材5に係合させる作業が容易に行える。これによって、屋根を独立に設ける出窓2の建築現場での施工を簡略化することができる。

20

【0017】

【発明の実施の形態】

以下、図面を参照して本発明に係る出窓ユニットについて説明する。図3は本発明の出窓ユニットの実施の形態の一例を示す分解斜視図である。図3において、符号3は出窓本体、符号4は出窓屋根部品、符号5は受け材、符号6は外装材、符号17は下端水切材であり、これらによって出窓ユニットの主要部が構成されている。

30

【0018】

出窓本体3は、図2の出窓本体3の斜視図、図4および図5の出窓ユニットの上端部断面図に示すように、出窓2に取り付ける窓枠の寸法に合わせて、屋根パネル8と床パネル9と側壁パネル10，10とによって矩形枠に組まれている。

この矩形枠の前面側には、4本の角材からなる枠体11が取り付けられている。

40

この枠体11の前面上端部には合板からなる横胴縁19が枠体11上部に沿って貼設され、さらにその表面には外装材6が貼設されている。屋根パネル8上面に貼設された合板21の表面には耐水シート22が貼設され、この耐水シート22は出窓本体3の前面上端部に設けられた横胴縁19と出窓本体3の枠体11との間に挟まれて前面上部の枠体11の端部まで貼設されている。出窓本体3の側面には縦胴縁15，15が貼設され、さらにその表面には外装材6が側壁パネル10，10全面に貼設されている。そして、出窓本体3の前面部と側面部との接合部の出隅部分には、さらに外装材6の出隅役物20が貼設されている。

【0019】

出窓屋根部品4は、図3に示すように、前記出窓本体3の屋根パネル8を覆う面積を有し

50

、出窓本体 3 の前面の縁部に向かって下方に傾斜する前面傾斜部 4 6 a と両側の側面の縁部に向かって下方に傾斜する側方傾斜部 4 6 b , 4 6 b とで構成される出窓屋根本体 4 6 と、該出窓屋根本体 4 6 の先端縁部に連続して形成された側壁部 4 7 とを鋼板で成形してなる部材である。また、図 4 および図 5 に示すように、側壁部 4 7 は、前記出窓屋根本体 4 6 の縁部から連続して側面を形成し、その上端部には外方に開口する溝 4 5 が設けられている。該溝 4 5 の下方は外方へ向けて突出している。そして、その突出部分のさらに下方では内側に直角に折り曲げられて水平な下端面を形成し、さらに上方へ向けて垂直に折り曲げられているが、その端部は前記出窓屋根部品 4 の軒先部 4 1 と側面部 4 2 , 4 2 とで構成が異なる。軒先部 4 1 では出窓 2 の内側方向に鉤状に突出する係合部 4 3 が設けられるのに対し、側面部 4 2 , 4 2 では、端部がそのまま上方に向かって垂直に延びている形状となっている。

10

**【 0 0 2 0 】**

なお、出窓屋根本体 4 6 の前面傾斜部 4 6 a の裏面には、前記前面傾斜部 4 6 a を補強するための合板 1 4 が貼設されている。さらに、外装材の端材からなる長尺な角材である調整材 7 が前記合板 1 4 の基端部側の端部に沿って設けられている。

**【 0 0 2 1 】**

受け材 5 は、図 4 に示すように、鋼板からなる断面略 J 字状の形状の部材であり、水平方向にコ字状に開口する溝と上方に開口する略 U 字状の溝とが連続して垂直に向き合い、略 U 字状の溝側の端部は、溝の内側方向に鋭角に曲折して係合部 5 1 を形成している。この受け材 5 は前記出窓本体 3 の上端部は上端前面の横胴縁 1 9 に当接しており、枠体 1 1 に取り付けられている。なお、前記受け材 5 の下端背面と前記枠体 1 1 との間に設けられる隙間 5 はサッシ枠 2 5 が挿入される溝となる。

20

**【 0 0 2 2 】**

外装材 6 は、出窓本体 3 の側面および前面を覆うように取り付けられる部材であり、防火性等を有する板状の素材を用い、意匠性を高める模様が形成されている。なお、前記外装材 6 は、横胴縁 1 9 , 1 9 あるいは縦胴縁 1 5 , 1 5 に貼設される。

**【 0 0 2 3 】**

下端水切材 1 7 は、図 3、図 6 および図 7 に示すように、出窓下端の縁部三方を囲むように成形された一つの部材からなる。その断面は上方が開口した溝状をなし、溝の前面側の端部は内側上方に傾斜するように延在した後、上端部は出窓本体 3 の壁面に沿うように上下方向に延びている。他方、溝の背面側の上端部は背面側に垂直に突出し、出窓本体 3 下面に沿うように延びている。

30

**【 0 0 2 4 】**

また、図 6 , 図 7 および図 8 に示すように、取付部材 1 8 は、前記下端水切材 1 7 を正確にかつ容易に取り付けるための補助部材であり、二平面が直交して L 字状をなし、平面部には釘 1 2 を打ち込む釘穴が設けられている。この取付部材 1 8 を前記下端水切材 1 7 の内側に、所定間隔で複数設けることによって、前記下端水切材 1 7 の取付位置を誘導し、取付位置の歪みを防ぐことができるようになっている。

**【 0 0 2 5 】**

次に、本実施の形態の出窓ユニットの施工方法について説明する。まず、予め工場にて形成された出窓本体 3 を躯体 1 を構成する壁面に取り付ける。このとき、図 3 に示すように、コーチスクリュー 2 3 , 2 3 を所定の位置に、躯体を構成する壁パネル 1 の壁面の裏面から挿通する。出窓本体 3 と壁パネル ( 躯体 ) 1 との当接面側の側壁パネル 1 0 には、前記コーチスクリュー 2 3 , 2 3 が螺合される図示しない挿入孔が左右に取り付けられており、前記コーチスクリュー 2 3 , 2 3 を螺合させて出窓本体 3 を躯体 1 に取り付け、接着剤および釘 ( 図示せず ) にて固定する。

40

**【 0 0 2 6 】**

次に、出窓屋根部品 4 を出窓本体 3 に取り付け。前記出窓屋根部品 4 を前記出窓本体 3 の上方から該出窓本体 3 の両端部と出窓屋根部品 4 の側面部 4 2 , 4 4 2 の内側とが接合する位置で嵌合するように出窓本体 3 の上面に覆い被せる。

50

続いて、出窓本体 3 の前面部に取り付けられている受け材 5 の係合部 5 1 と前記出窓屋根部品 4 の軒先部 4 1 の係合部 4 3 とが当接する位置まで、出窓屋根部品 4 を基端部 4 4 側に押し込み、その位置で、出窓屋根部品 4 を上方に持ち上げながら、さらに押し込み前記受け材 5 に前記出窓屋根部品 4 の係合部 4 3 を係合させる。このとき、前記出窓屋根部品 4 の基端部 4 4 の裏面には前記調整材 7 が設けられているので、該出窓屋根部品 4 の上面の傾斜角度によって、出窓屋根部品 4 の基端部 4 4 が所定位置から下方にずれることがなく、容易に取り付けることができる。次いで、出窓屋根部品 4 の溝 4 5 に所定間隔で設けられた釘穴（図示せず）に、外方から釘 1 2 を打ち込み、出窓屋根部品 4 を出窓本体 3 に固定する。

【 0 0 2 7 】

なお、出窓屋根部品 4 を出窓本体 3 に固定した後、前記出窓屋根部品 4 の基端部 4 4 には、図 3 および図 5 に示すように、該出窓屋根部品 4 の前記出窓屋根本体 4 6 の側方傾斜部 4 6 b と、側面の凹凸部分を覆うカバー 4 8 が取り付けられる。このとき、前記カバー 4 8 と出窓屋根部品 4 の側面部 4 2 , 4 2 との間に生じる隙間には固着材 1 6 が取り付けられる。このカバー 4 8 によって、出窓屋根部品 4 の基端部 4 4 を覆うので、壁パネル（躯体）1 の外装材 2 4 を、出窓屋根部品 4 の基端部 4 4 側の端部の形状に合わせて切断する必要がなく、基端部における壁パネル（躯体）1 の外装材 2 4 の取り付けを容易に行うことができる。さらに、出窓本体 3 に当接しているだけである出窓屋根部品 4 の側面部 4 2 , 4 2 を補強し、該出窓屋根部品 4 の側面部 4 2 , 4 2 の浮きを防ぐ効果を奏する。

【 0 0 2 8 】

次いで、図 7 および図 8 に示すように、予め前記下端水切材 1 7 の内側の所定位置に貼設された 9 個の取付部材 1 8 を挟むようにして下端水切材 1 7 を取り付け、外方から前記下端水切材 1 7 および取付部材 1 8 に設けられた釘穴を通して、出窓本体 3 の下端部に釘 1 2 で打ち付けて固定する。次に、出窓本体 3 下端側に予め貼設されている横胴縁 1 9 に外装材 6 を取り付ける。よって、出窓本体 3 の前面側の前記下端水切材 1 7 と取付部材 1 8 とは外装材 6 と出窓本体 3 との隙間に取り付けられることとなる。下端水切材 1 7 をこのような構成で取り付けることによって、前記下端水切材 1 7 と取付部材 1 8 との接合面が外装材 6 に覆われて外部に露出せず、下端水切材 1 7 の内部に雨水等が浸水することがない。

【 0 0 2 9 】

このようにして出窓ユニットの取り付けを終えたら、前記出窓屋根部品 4 の基端部 4 4 と躯体 1 との接合部にシール材 1 3 を貼り付けたり、出窓屋根部品 4 の側面 4 2 , 4 2 の各接合部に防水等の為にコーキングを施す等、全体の仕上げ処理を適宜行い施工を終了する。

【 0 0 3 0 】

上記実施の形態の例によれば、前記出窓屋根部品 4 の両側面部が出窓本体 3 の側壁パネル 1 0 , 1 0 の全面に設けられた外装材 6 に当接するようにして、出窓本体 3 の上部を覆っているため、出窓屋根部品 4 を容易に取り付けられる。また、その前面部を前記受け材 5 に係合する時に左右にずれることがない。よって、出窓本体 3 に出窓屋根部品 4 を容易に取り付けることができる。

【 0 0 3 1 】

なお、図 5 に二点鎖線で示すように、本発明の実施の形態と異なり、例えば、出窓本体 3 の側壁パネル 1 0 , 1 0 にも係合部を備えた受け材 3 0 を設けた場合、側壁パネル 1 0 , 1 0 に取り付けた縦胴縁 1 5 , 1 5 および外装材 6 は、図中 L の位置で上部を切断し、前記受け材 3 0 の下端面に当接する構成となる。そして、その当接部における浸水を防ぐために、符号 3 1 に示す位置にコーキングを行う必要がある。一方、本願発明にかかる実施の形態の例によれば、前記出窓屋根部品 4 が、出窓本体 3 の外装材 6 の上端部も含めて覆う構成となっているので、前記出窓屋根部品 4 にかかった雨水等が、外装材 6 上端部から入ることがなく、出窓本体 3 内部に浸水することを防ぐことができる。このような構成によって、外装材 6 と出窓屋根部品 4 との当接面におけるコーキングの箇所を減らすことが

10

20

30

40

50

可能となり、施工作業が軽減される。

【0032】

また、前記下端水切材17の内側に取り付けられた取付部材18の角部の内側と前記出窓本体3の下端の角部とが当接するので、前記取付部材18によって、下端水切材17の取付位置が誘導され、容易かつ正確に前記下端水切材17を取り付けることができる。

【0033】

このように、上記出窓ユニットの例によれば、設置位置の制約を受けることなく出窓の屋根を独立に設ける出窓を容易に施工することができる。

【0034】

なお、本実施の形態の例では、出窓本体3の形状を矩形としたが、これに限定するものではなく、例えば、側面が内側方向に傾斜している形状等、要は、出窓2に設けられる窓の形状に沿うものであればよい。また、出窓屋根部品4は鋼板製としたが、これに限定するものではなく、要は耐水性を有するものであればよい。また、出窓ユニットを取り付ける躯体1を壁パネルとしたが、これに限定するものではなく、一般の工法で施工された躯体の壁面などでもよく、要は躯体を構成する壁面に出窓2が取り付け可能な構成であればよい。また、受け材5の形状も実施の形態の一例であり、前記出窓屋根部品4を係合する係合部51を有するものであればよい。

【0035】

また、取付部材18を前記下端水切材17の内側の前記出窓本体3と当接する位置に設けたが、これに限定するものではない。例えば、取付部材18を前記出窓本体3の枠体11の下部に所定間隔で複数設けることとしてもよく、要は、前記下端水切材17と前記出窓本体3の下部との間に取付部材18を介して前記下端水切材17が前記出窓本体3の下部縁部に取り付けられるものであればよい。

【0036】

【発明の効果】

請求項1の発明によれば、前記出窓本体に設けられた受け材によって、前記出窓屋根部品は前記受け材に係合されるので、出窓屋根部品を出窓本体に容易に装着できる。この際、出窓屋根部品の側面部は、前記出窓本体の外装材に当接しているので、出窓屋根部品の上下動が可能となり、前記出窓屋根部品を前記受け材に係合させる作業が容易に行える。よって、前記出窓屋根部品を前記出窓本体に容易に取り付けることができ、施工作業が軽減できる。なお、前記出窓屋根部品の側面部が当接するのは前記外装材表面であるので、前記出窓屋根部品にかかった雨水等が、外装材によって防水され、出窓本体内部に浸水することを防ぐことができる。

また、前記躯体に当接する前記出窓屋根部品の基端部の裏面と、前記躯体に当接する前記出窓本体の基端部の上面との間に設けられた調整材によって、出窓屋根部品を安定的に支持し、前記出窓本体および躯体への出窓屋根部品の取り付けを容易に行える。また、出窓屋根部品上部から加わる力に対する補強材としての効果を奏し、該出窓屋根部品が所定の取付位置から下方にずれることがない。

また、前記出窓本体下部には下端水切材が設けられているので、出窓より下方の壁面に雨水等が伝わり、壁面が汚れたり、浸水することを防ぐことができる。また、前記下端水切材は、複数の取付部材を介して前記出窓本体の下部縁部に取り付けられており、前記取付部材は、前記下端水切材または出窓本体の下部縁部に所定間隔で複数取り付けられているので、出窓本体への取付位置を容易に知ることができるとともに、下端水切材の取付位置がずれたり歪んだりすることがない。よって、下端水切材の取り付け作業を容易かつ正確に行うことができる。

【0039】

請求項2の発明によれば、請求項1と同様の効果を得ることができるのはもちろんのこと、出窓屋根部品が外装材の上端部を覆う構成となり、雨水等が外装材より内側に入ることがない。よって、出窓本体への浸水をより確実に防ぐことができる。さらに、出窓屋根部品と前記出窓本体の接合部における防水の為にコーキングの作業を簡略化でき、施工作

10

20

30

40

50

業が軽減される。また、前記外装材は前記出窓本体の側面部の下端まで覆っているので、出窓本体下端部への雨水等の浸水も防ぐことができる。

【0040】

請求項3の発明によれば、請求項1または2と同様の効果を得ることができるのはもちろんのこと、前記出窓ユニットの施工方法によって、前記出窓屋根部品を前記出窓本体に被せれば適切な取付位置に容易に誘導できる。また、出窓の軒先部において、出窓屋根部品を外装材に係合させるだけで前記出窓屋根部品が容易に取り付けられる。また出窓屋根部品を受け材に係合する際、出窓屋根部品の上下動が可能であるので、前記出窓屋根部品を前記受け材に係合させる作業が容易に行える。よって、屋根を独立に設ける出窓の建築現場での施工を簡略化することができる。

10

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の出窓ユニットを用いた出窓の一例を示す斜視図である。

【図2】本発明の出窓ユニットの出窓本体の一例を示す斜視図である。

【図3】本発明の出窓ユニットの分解斜視図である。

【図4】本発明の出窓ユニットの出窓本体と出窓屋根部品の軒先部との係合部を示す断面図である。

【図5】本発明の出窓ユニットの出窓本体と出窓屋根部品の側面との当接部を示す断面図である。

【図6】本発明の出窓ユニットの下端水切材に取付部材が取り付けられた例を示す斜視図である。

20

【図7】本発明の出窓ユニットの下端水切材と取付部材との取り付けの様子を示す断面図である。

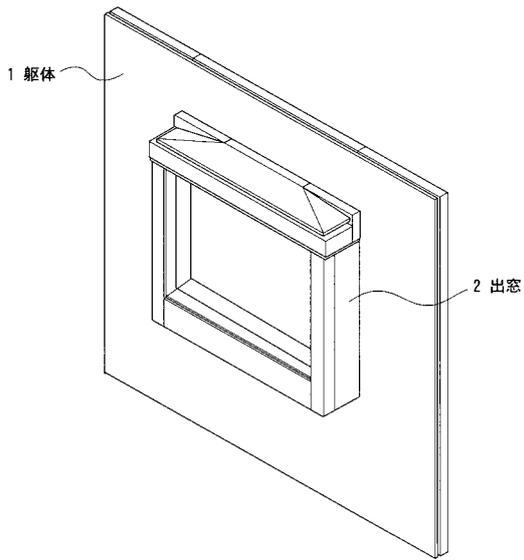
【図8】本発明の出窓ユニットの取付部材の取付位置を示す平面図である。

【符号の説明】

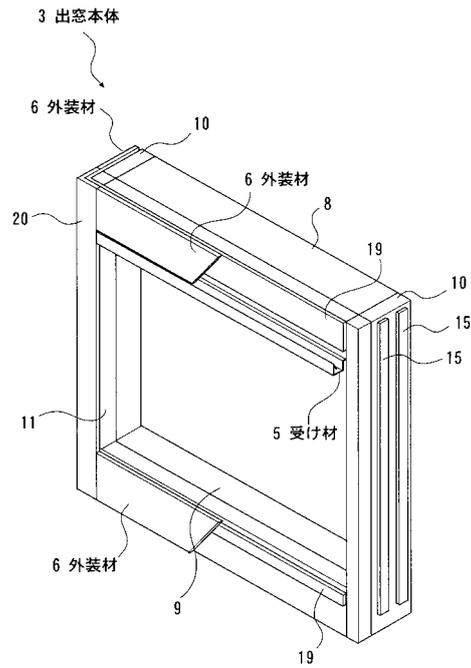
- 1 躯体
- 2 出窓
- 3 出窓本体
- 4 出窓屋根部品
- 5 受け材
- 6 外装材
- 7 調整材
- 17 下端水切材
- 18 取付部材
- 41 軒先部
- 42 側面部
- 44 基端部

30

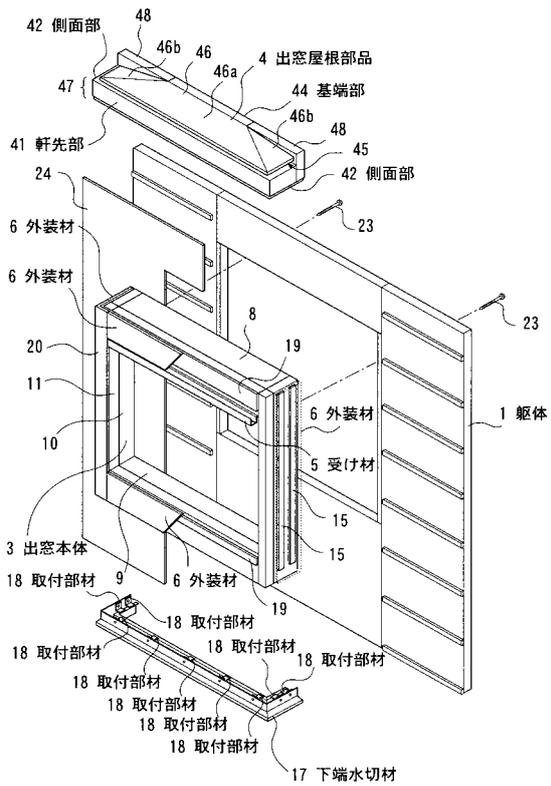
【図1】



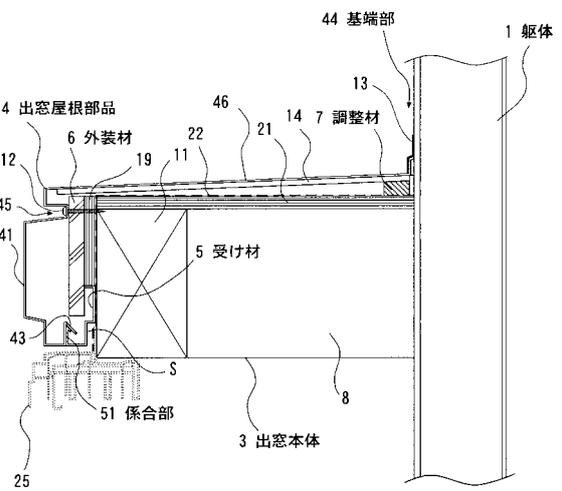
【図2】



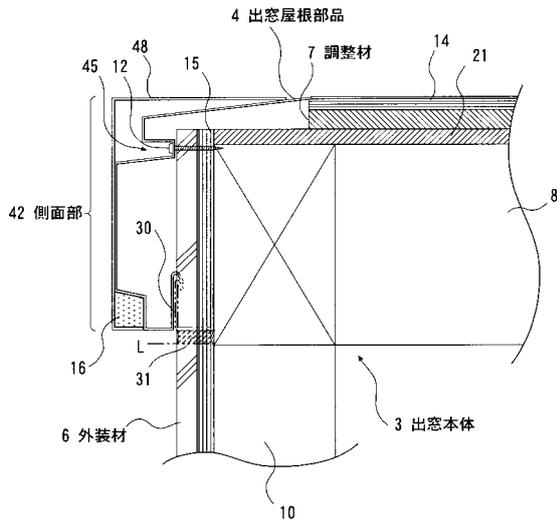
【図3】



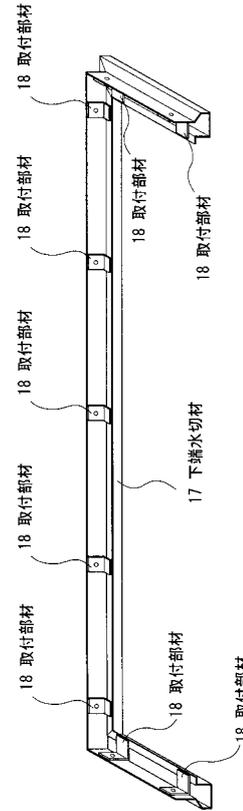
【図4】



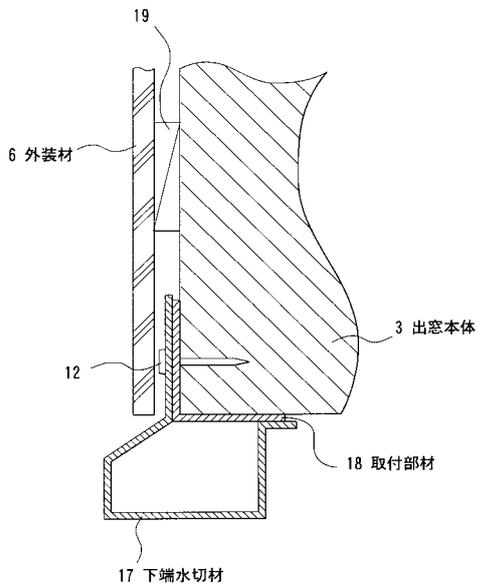
【図5】



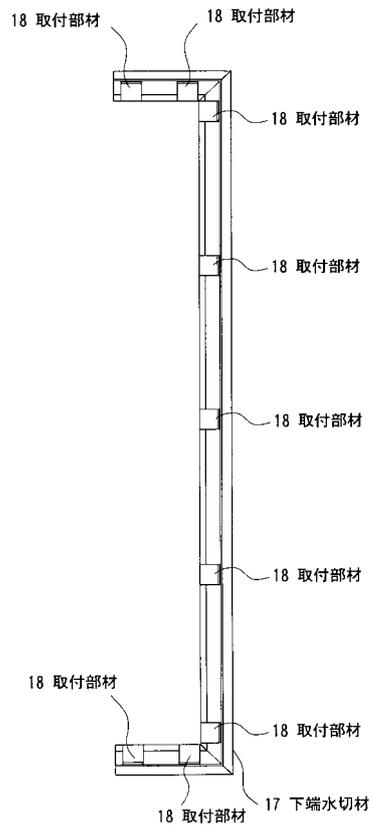
【図6】



【図7】



【図8】



---

フロントページの続き

- (56)参考文献 実開昭56-149784(JP,U)  
特開平11-117622(JP,A)  
実開昭56-109358(JP,U)  
特開平02-091384(JP,A)  
特開平07-331968(JP,A)  
特開平05-141159(JP,A)  
特開平08-086151(JP,A)  
実開昭63-001186(JP,U)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

E06B 3/00